

2019 年度さくらねこ無料不妊手術事業

一般枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分への減少に寄与する活動です。

2019 年度は 2,510 名の個人(一般枠)、19 団体、118 の行政と協働し、約 3 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

1. アンケート概要

2019 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(一般枠)に事後調査アンケートを実施しました。

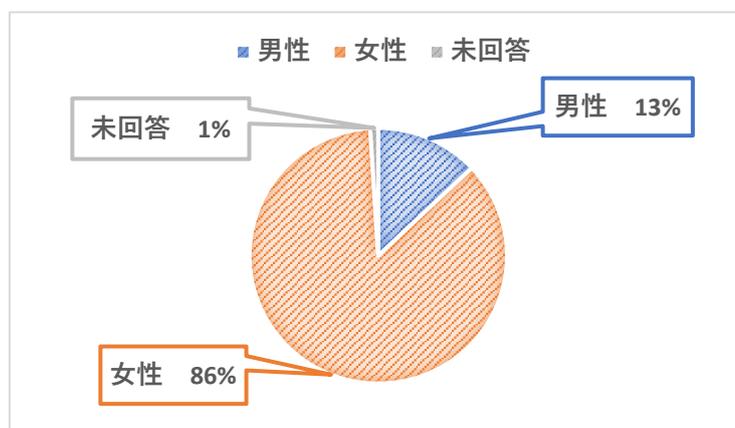
※一般枠とは: 行政枠、団体枠に属さない個人ボランティア

- 2019 年度さくらねこ無料不妊手術チケット一般枠申請者数 2,510 人
- アンケート依頼時(2020 年 1 月 15 日)のマイページ登録者数 4,483 件
- アンケート回答数 1,808 件(マイページ登録者数 4,483 件中)

2. 協働ボランティアの男女比

男性 : 234 名
女性 : 1,556 名
未回答 : 18 名

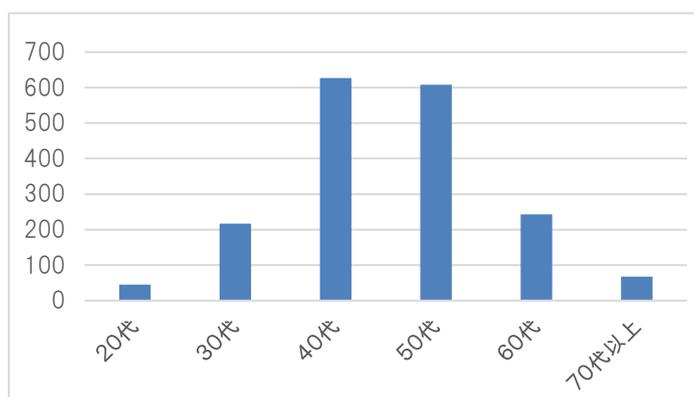
86%が女性でした。



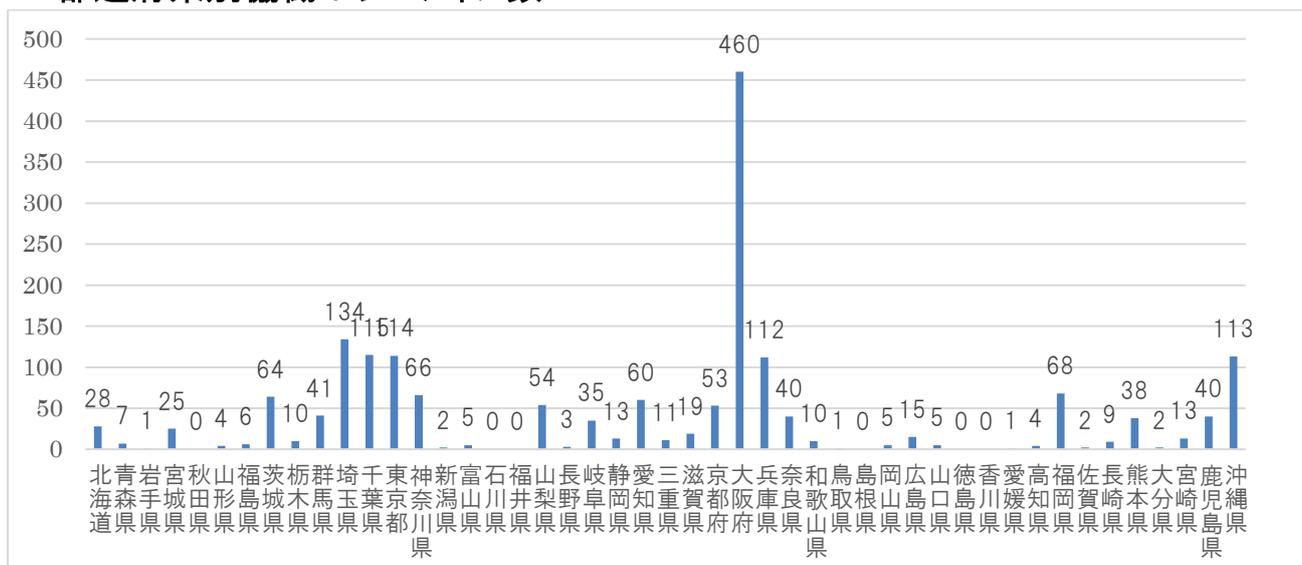
3. 協働ボランティアの年齢層

20 代 : 45 名 50 代 : 608 名
30 代 : 217 名 60 代 : 243 名
40 代 : 627 名 70 代以上 : 68 名

40 代以上が 86%、20 代は 2%でした。



4. 都道府県別協働ボランティア数



昨年度に引き続き、大阪が25%と全体の4分の1を占めており、関西・関東・沖縄県にボランティアが集中していることが伺えます。東北・北陸・中四国ではボランティア数や協力病院数も少なく、これらの地域での周知が課題と言えます。

5. 配布チケット数について

2019年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	913	61.2%
11～30	288	19.3%
31～60	120	8.0%
61～100	44	3.0%
100～200	3	0.2%
201以上	1	0.1%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	769	54%
80～99%	253	18%
60～79%	103	7%
40～59%	96	7%
20～39%	52	4%
1～19%	12	1%
使わなかった	144	10%

54%のボランティアさんが配布されたチケットを100%使用しました。
72%のボランティアさんが80%以上の使用率でした。

6. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	93	5%
いいえ	1715	95%

地域猫は全体のわずか5%でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	407	22.5%
1	112	6.2%
2～5	566	31.3%
6～10	342	18.9%
11～15	142	7.9%
16～20	101	5.6%
21～30	65	3.6%
31～50	40	2.2%
51～80	20	1.1%
81～250	13	0.7%

7. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	1369	76%
猫の性格が穏やかになった	764	42%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	905	50%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	368	20%
猫の健康状態が良くなった	678	38%
その他	137	8%

その他の猫の変化としては、「猫の交通事故やケガが減った」、「雄猫が来なくなった」、「虐待が減った」等の意見が挙がりました。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	853	47%
猫の数は変わらない	868	48%
猫の数が増えた	87	5%

猫の数が増えた事例では、「遺棄が増えた」、「他の地域から別の猫が来るようになった」等の報告が挙がりました。

8. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	645	36%
苦情が減った	474	26%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	510	28%
協力してくれるひとが増えた(できた)	991	55%
地域の人に感謝された	684	38%
猫を可愛がってくれる人が増えた	572	32%
その他	202	11%

その他の変化では、「猫の見守り隊ができた」、「地域の猫について話せる人ができた」、「猫の相談を受けることが増えた」などの回答がありました。

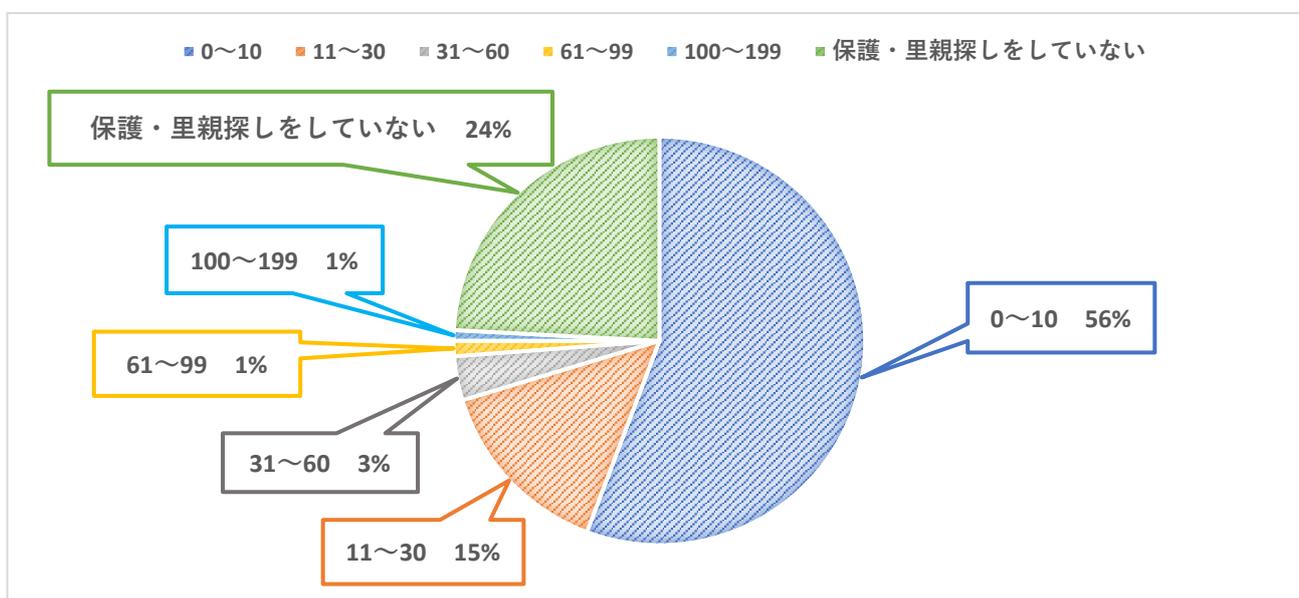
住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	740	41%
変わらない	1037	57%
悪くなった	31	2%

関係が悪くなった事例では、「なかなか理解してもらえない」、「TNR をしていることを知って猫を置いていこうとする人がある」、「ただ餌をあげていると誤解されている」などの回答があり、全体的に地域住民の TNR への理解不足が背景にあることが指摘されました。

9. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	1372	76%
いいえ	436	24%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
1～10	964	70.3%
11～30	263	19.2%
31～60	63	4.6%
61～99	22	1.6%
100～199	15	1.1%
200 以上	3	0.2%
0	42	3.1%



1372 名(76%)の協働ボランティアさんが 16,006 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	189	10.5%
1	161	8.9%
2～5	713	39.4%
6～10	404	22.3%
11～15	144	8.0%
15～20	80	4.4%
21～30	68	3.8%
31～50	35	1.9%
51～80	9	0.5%
81～100	3	0.2%
101 以上	2	0.1%

10. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	913	50%
資金不足	1325	73%
捕獲がうまくできない	663	37%
行政との調整	571	32%
地元地域との調整	877	49%
その他	129	7%
特になし	93	5%

その他の課題として、「ボランティアの高齢化」、「捕獲後や手術後の預かり場所が足りない」、「マナーを守らないえさやり」、「多頭飼育崩壊」、「行政の協力不足」などの回答がありました。

11. 飼い猫の捕獲について

2019年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	154	9%
いいえ	1654	91%

アンケート回答者 1,808 名のうち 154 名(9%)が、飼い猫が捕獲機に入りましたと回答。通常は、飼い猫と確認できた時点で、手術はせずに元に戻すのですが、誤って 2 頭に不妊手術を行ったという報告と、去勢手術済みであった 2 頭に耳カットしてしまったという報告が寄せられました。

質問:間違っ手術した猫について、飼い主とはどう解決しましたか？

- 飼い主さんとのトラブルに発展することはありませんでした。保健所や動物愛護推進員を交え、飼い猫には首輪や迷子札を付けること、室内飼いをすることを指導してもらったのですが、未だにその猫が野良猫たちと一緒にご飯を食べにきており、困っています。
- リリース後に町内会長に苦情があり、飼い猫だったことが判明しました。飼い主さんと話し合いを持ち、放し飼いの危険性や耳カットの意味などについてお伝えすることができ、結果的に猫を通して今でも親しくさせていただいています。
- 去勢済みで耳カットのみを行った後で飼い猫だったことが判明し、猫を連れて飼い主さんに謝罪に伺いました。猫が首輪を嫌がるため、いつか保健所に連れていかれるのではと不安だったが、さくらねこになったことでその心配がなくなったと感謝されました。
- 去勢済みで耳カットのみを行いリリースした後に苦情がありました。首輪や耳カットがなかったことから野良猫と判断したこと、放し飼いのリスクなどについてお話しましたが、飼い主さんが興奮しており、冷静に話し合うことができませんでした。最終的に警察に仲裁に入ってもらったことで飼い主さんも落ち着かれ、現在のところトラブルは再燃していません。

12. ピックアップコメント

- 人間の間違っした優しさ(未手術、多頭飼育、餌付けなど)が、多くの行き場のない命を増やしてしまいます。私は相談されてもどうすることもできず、話を聞くばかりでした。でも、チケットを利用させて頂き、また、心ある獣医師と出逢うことで、少しでも力になることができ嬉しく思いました。野良猫に投資する人はいません。そういう中で、こうした寄付は何よりのはげみになります。ありがとうございます。
- 手術をしたくても、頭数が多いとなかなか手術まで踏み切れませんでした。今回皆様の善意により、手術を行う事ができ感謝しております。

- 近所の方々から餌をもらい可愛がられているノラ猫ちゃん。不妊手術については誰が負担すれば良いのか悩みました。私は家に 4 匹の保護猫がいてこれ以上は無理だったので、無料チケットを申し込みました。結果、ご近所さんも安心され、ほんとうによかったです。子猫はかわいいけど、産まれてしまったその後のことを考えると、やはり不妊手術は必要です。ご寄付いただいた方々に感謝感謝です。
- 近所で見かける猫達は、ほぼさくらねこになりました。町内会で集めた募金で足りなかった分の不妊手術代をサポート様の寄付のお陰で賄う事が出来ました。本当にありがとうございました。
- TNR をしたことで、近隣の方々や、ビルの管理会社からも感謝されました。
- TNR やボランティア活動をすることが難しい方から「何か協力できることはないですか？」と聞かれると「どうぶつ基金に寄付をお願いします」と伝えています。TNR 活動中に近所の方から「寄付したよ！頑張ってや！」とお言葉をいただくこともあり、毎年継続して TNR していく事が大切なんだと改めて実感しました。
- 事故で亡くなっていた野良猫を連れて帰り「こんな風になくなってしまおう子を増やしたくない！どうにかしてあげられないか」と困っていたときに、さくらねこの活動を教えてくださる方がいて、初めてこの活動を知りました。お陰様でなんとか捕獲できた子数匹に手術をしていただくことができました。出産後でガリガリに痩せていた子もいましたが、今は寒さに耐えられる体力が付き、子供達を育てることができています。今後この子供達にもきちんと手術を受けさせる予定です。サポートの皆様のご寄付のお陰で私の回りにいる野良猫達に手術をする事ができたので、この先このさくらねこちゃん達にできる事を一生懸命していきたいと思っています。本当にありがとうございました。
- おかげさまで、近所の猫の手術は終わり、理解者もふえました。ありがとうございました。
- 「ただ餌をあげているのではなく、ちゃんと増えないよう避妊する活動をしています」と話せるようになりました。理解してもらうことはなかなか難しいですが、地域の為、猫の為に活動ができ大変感謝しております。
- 不幸な猫を増やさずに済み、猫に不満を持っていた方からも「手術済みなら…」と理解を得ることができました。ありがとうございました。。

13. 総括

- 地域住民との関係では、「猫に対する姿勢が厳しかった住民からも理解を得ることができた」、「支援物資や見守りなど協力してくれる人ができた」、「ご近所の方から、猫に対する情報が集まるようになった」など、地域との関係が好転していることがうかがえる報告が数多くありました。しかし、その一方で「猫への嫌がらせが減らない」、「TNR やさくらねこについて説明したが理解してもらえず、餌やりをやめるよう注意された」といった報告のほか、「TNR を行っていることが知られたことで、猫を捨てていく人が増えて困っている」という声もあがっています。昨年度に引き続き、「住民と猫ボランティア(あなた)の関係は」の質問に対しては 57%が「変わらない」と回答。やはり、一般の市民の野良猫への関心はまだまだ低く、「さくらねこ」や「TNR」の認知度も低いことが分かります。一般への周知はもちろん、さくらねこ無料不妊手術事業においては、東北・北陸・中四国での活動を広げていく必要があります。

- 「同じように保護活動をしている方と知り合いになり、自分の世界が広がった。1人ではないと心強くなった」、「地域の子どもたちがお世話を手伝ってくれるようになった」、「雪のふる寒い日に TNR をしていたところ、近所の住人の方が、温かいお茶や、チョコレートなどの差し入れをくださり、心が温まりました。」など、TNR 活動を通じて仲間や応援者が増えていくことへの喜びの声も届いています。その一方で、近隣住民からの暴言や嫌がらせを恐れて、人目を避けて活動している方や、近所や友人にも言わず1人で活動している方もいました。

- 回答者のうち、行政に認められた地域猫活動地域で活動している例はわずか 5%に留まり、地域猫活動の普及の難しさが顕在化しました。地域猫活動は合意形成に時間を要することが多く、話し合いを待つ間にも不幸な命が生まれてきます。どうぶつ基金が提唱する TNR 先行型地域猫活動は、殺されるためだけに生まれてくる不幸な命を減らす実践型の TNR 活動です。TNR を先行して実施することで住民の理解が得やすく、協力者が増えるなど、その後の地域猫活動の土台となる好ましい事例も数多く報告されています。

アンケートでは、行政の消極的な姿勢に対する不満の声も少なくありません。行政が各ボランティアと協力する形で、TNR 先行型地域猫活動の普及啓発や制度の見直しを行えば、各ボランティアへの負担軽減につながり、不幸な猫を救う活動は飛躍的に拡大するはずで、そして、マナーを守らない無責任な餌やり、不妊手術をしていない猫の放し飼い、捨て猫など、勝手な人間の行動が猫たちに悪意が向けられる原因でもあります。並行して、猫の飼い方や野良猫との接し方についても、市民の理解を得るための官民連携の啓発活動や法的枠組みの整備が必要でしょう。